

踏み出そう新たなステージへみんなの力が新渡戸の未来

7月号

令和3年7月1日号



# 新渡戸記念 中野総合病院 だより

Nitobe Memorial Nakano General Hospital

東京医療

住所 東京都中野区中央四丁目59番16号

TEL 03-3382-1231 (代) 夜間受付 03-3382-9991

ホームページ <http://www.nakanosogo.or.jp> E-mail [syougai@nakanosogo.or.jp](mailto:syougai@nakanosogo.or.jp)

第385号

発行人/理事長 入江 徹也

発行責任者/渉外・広報課長 仲田 智

## 胃カメラ・大腸カメラを受けたことがありますか？

消化器外科 部長 吉田 剛

以下の症状ありませんか？

胸やけ・吐き気・みぞおちに痛みがある・食事が胸につかえる・黒い便がでる・貧血を指摘された・ピロリ菌を指摘された→胃カメラをやりましょう！

おなかが張る・便秘になった・便が細くなった・最近下痢が多い・下痢と便秘を繰り返す・便に血が混じる・貧血を指摘された→大腸カメラをやりましょう！

胃カメラとは、口(または鼻)から内視鏡スコープを挿入し、咽頭・食道・胃・十二指腸を観察する検査です。検査時に腫瘍や癌を疑う所見を認めた場合には、組織検査を行います。また潰瘍などから出血している場合は止血処置を行うこともあります。嘔吐反射等の強い体質の方は静脈麻酔を使用しながら検査を施行できますので、予約の際にお申し付けください。

大腸カメラとは、肛門から内視鏡スコープを挿入し、盲腸まで到達します。大腸癌の診断だけでなく、大腸ポリープの診断・切除もできます。またポリープを切除することは大腸癌の予防にもなるため、重要な検査方法と言えます。とくに大腸癌は年々増加傾向にあり、若年化してきているため40～50歳代の働き盛りの方々にも受けていただきたい検査の一つです。当院の大腸内視鏡検査は、楽に

検査を受けていただくため静脈麻酔を使用した内視鏡検査を行っています。また検査時におなかに送りこむ空気は二酸化炭素を用いるため、通常の空気を用いた内視鏡検査よりもお腹が張らず、楽に検査を受けることができます。そして、当院では女性医師による大腸内視鏡検査も行っていますので、予約の際ご相談ください。

以上のような予約検査のみならず、当院では緊急内視鏡処置にも対応させていただいております。食道・胃・十二指腸・大腸からの出血に対する緊急止血処置、腸閉塞を伴った大腸がんに対するステント留置、また胆道疾患に対する治療(内視鏡的減黄術、採石術、ステント留置)なども積極的に行っています。さらには早期の消化器癌に対する内視鏡治療(内視鏡的粘膜下層剥離術)も行っております。

当院の建物は古いですが、内視鏡機器は最新のものを設置しております。そして、内視鏡のスペシャリスト医師(日本消化器内視鏡学会指導医4名、専門医2名)、および経験豊富なエキスパート看護師が一枚岩の結束を保ち診療にあたっております。皆様が安全にそして安心して検査を受けられるような体制を敷き、スタッフ一同お待ちしております。



# 第1回「新渡戸記念中野総合病院賞」表彰式が開催されました

渉外・広報課長 仲田 智

この度、東京医療生活協同組合に「新渡戸記念中野総合病院賞」が創設されました。長い歴史を持つ当生協には不思議に職員を表彰する制度がありませんでした。「新渡戸記念中野総合病院賞」創設のきっかけは、院内感染防止を徹底すべく速乾性手指消毒液を使った手指消毒を推進する運動の中で、地道に努力している職員を激励したいという院内感染対策委員会の思いからでした。これを受けて院内問題改善委員会が「職員を広く表彰する制度」を作ることを決定し、各委員会に受賞候補者の推薦を依頼しました。受賞対象者は、患者の皆様がより診療を受けやすくなるために、また、病院の医療安全・感染対策等の改善を図るために、一所懸命、地道に努力している職員とし、ここに「新渡戸記念中野総合病院賞」が創設される運びとなりました。

受賞者は各委員会からの推薦者の中から運営会議において決定されます。栄えある第1回「新渡戸記念中野総合病院賞」の受賞は、院内感染対策委員会推薦の速乾性手指消毒液の使用頻度が多かった職員（2020年度上半期5名、下半期5名）と積極的に取り組んだ第1病棟が選出されました。2021年5月17日、



病院長・副院長・事務局長・看護部長等病院幹部の出席のもと、第1回「新渡戸記念中野総合病院賞」表彰式が執り行われ、受賞者には病院長から表彰状と副賞が授与されました。

今後は「新渡戸記念中野総合病院賞」を更に発展させ、地道に努力する職員を讃え、応援していくこととなります。今後、この賞の発展が東京医療生活協同組合の更なる質の向上を実現し、ひいては当生協が多くの患者の皆様、組合員の方々のお役に立てることに繋がると思います。

## 検査まめ知識

### ホタルの光で検査する

中央検査科 技師長 須藤 淳二

私が住んでいる千葉県のとある町では、夏になるとホタルが放つ発光を楽しめる場所があります。ホタルの発光物質はルシフェリンと呼ばれ、ルシフェラーゼという酵素とATP(アデノシン三リン酸)が、はたらくことで発光しますが、熱をほとんど出さないとされています。

この発光を原理とした測定法としてATP拭き取り検査(A3法)があります。生物を含む多くの有機物に含まれるATPを汚れの指標とした検査法で、ATPがたくさん残っていることは、食品製造の現場では食品残渣など洗い残しや微生物増殖リスクがあること、医療の現場では感染症汚染のリスク源になる可能性

があることを意味します。綿棒で食品等の製造設備、調理器具などをぬぐい、試薬と反応させて数値化し、目に見えない洗浄評価の指標として利用されています。

ただし新型コロナウイルスなどのウイルスはATPを含んでいないため、拭き取り検査(A3法)で検出できないとされています。

